

これまでの脳科学委員会の開催実績及び 脳科学作業部会における当面の審議予定

令和4年1月19日

脳科学委員会の開催実績

第44回 令和元年5月20日 15:00～17:00

- (1) 脳科学委員会の議事運営等について
- (2) 文部科学省における脳科学研究の取組について
- (3) 令和元年度研究評価計画について
- (4) 脳科学に関する研究開発課題の中間評価(案)について
- (5) 「革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト(革新脳)」の今後の進め方について

第45回 令和元年7月30日 10:00～12:00

- (1) 精神・神経疾患克服に向けた国内外の脳科学研究の動向について
- (2) 今後の脳科学研究の推進方策に関する作業部会の設置について
- (3) 次期科学技術基本計画策定に向けた議論の進め方について

第46回 令和元年10月15日 持ち回り開催

第6期科学技術基本計画の策定に向けたライフサイエンス分野としての提言(書面審議)(非公開)

第47回 令和2年2月4日 14:00～16:00

- (1) 次期医療分野研究開発推進計画の検討状況について
- (2) 次期社会への貢献を見据えた今後の脳科学研究の推進方策の検討状況について
- (3) 脳科学に関連した国際連携の動向について
- (4) 研究開発プログラム評価の試行的実施について

第48回 令和2年5月12日 持ち回り開催

脳科学委員会の運営について(書面審議)(非公開)

第49回 令和2年7月8日 10:00～12:00 会議形式:オンライン会議

- (1) 文部科学省における脳科学研究の取組状況について
- (2) 社会への貢献を見据えた今後の脳科学研究の推進方策について
- (3) 令和2年度研究評価計画について
- (4) 脳科学に関する研究開発課題の事前評価(案)について(非公開)

令和2年3月に科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 脳科学委員会 『戦略的に推進すべき脳科学研究に関する作業部会』にて、『社会への貢献を見据えた今後の脳科学研究の推進方策について－中間とりまとめ－』を作成し、令和2年7月に同委員会にて了承

□ 脳科学研究の現状と課題、今後の推進方策

- 脳科学研究が真のオリジナリティを発揮し、国際的な競争力を獲得するためには、脳業態の根本的解明につながる新規の要因・原理の発見が必須
⇒ 分子的機序の解明が必要
- 基礎研究で得られた知見を臨床研究に応用した脳病態の解明と克服が重要
- 臨床研究から得られた知見を基礎研究に還元して新たな疾患メカニズム・脳の作動原理の解明につなげる循環推進が必要
⇒ 基礎・臨床双方向のトランスレーショナル研究を推進
- 脳科学という既存概念でとらえきれない部分が多く残されている分野においては、特に若手研究者の独創性、革新性、先進性を奨励する支援の取組が必須
⇒ 次世代の脳科学を担う人材を育成
- 脳プロでの動物研究、革新脳の霊長類モデル、国際脳でのヒト脳研究を有機的につなげ、脳病態の基礎研究推進が重要
- 基礎と臨床の融合、疾患・病態を軸にした分野横断的な研究体制の構築が必須
⇒ プロジェクトの大括り化を実施
等

脳科学作業部会 当面の審議予定(案)

第1回(令和4年1月19日)

- ・脳科学作業部会の議事運営等について(非公開)
- ・文部科学省における脳科学研究の取組について
- ・これまでの脳科学委員会の審議実績及び脳科学作業部会における当面の審議予定
- ・脳科学の研究開発動向

第2回(令和4年4月15日)

- ・革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト(革新脳)について
- ・革新脳のAMEDによる中間評価結果について
- ・理研CBSにおける脳科学研究の取組について

第3回(令和4年夏頃)

- ・戦略的国際脳技術研究推進プログラム(国際脳) について
- ・国際脳のAMEDによる中間評価結果について
- ・精神疾患メカ・横断萌芽プロの進捗状況

第4回(令和4年秋頃)

- ・今後の脳科学研究の推進方策検討(論点整理)
- ・有識者からの聴取

第5回(令和4年冬頃)

- ・今後の脳科学研究の推進方策検討
- ・第4回の議論を踏まえた在り方を検討